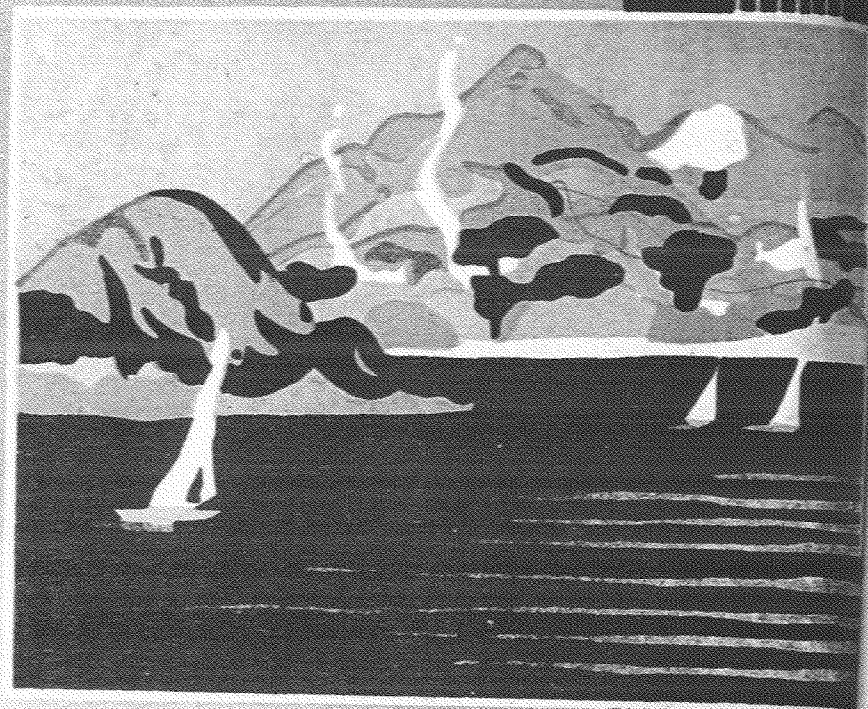


# 別府市勢要覽

昭和八年調製

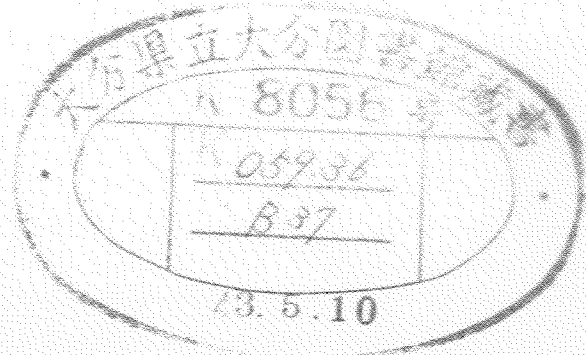


別府市役所

景全市府別

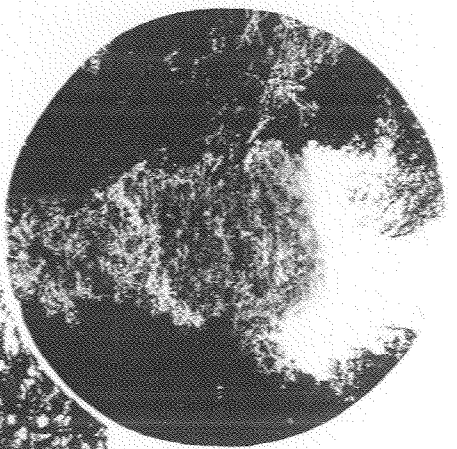


禁帶出



059.36

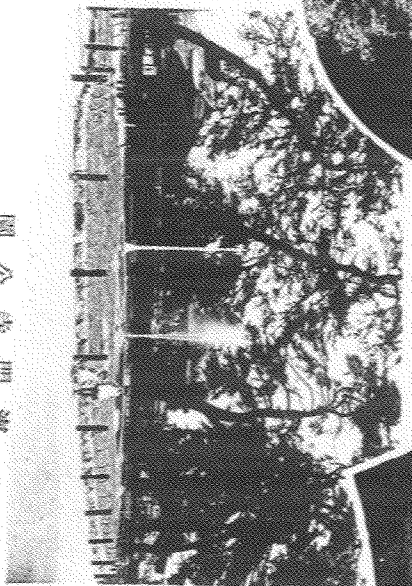
B.37



谷澤山内・勝三南別

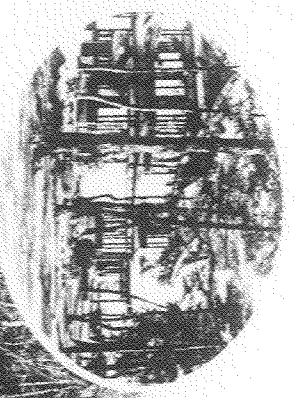


湖高志・勝三南別

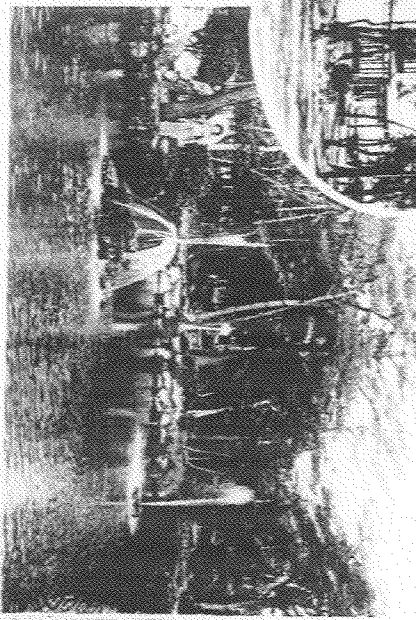


園公寺門瀑

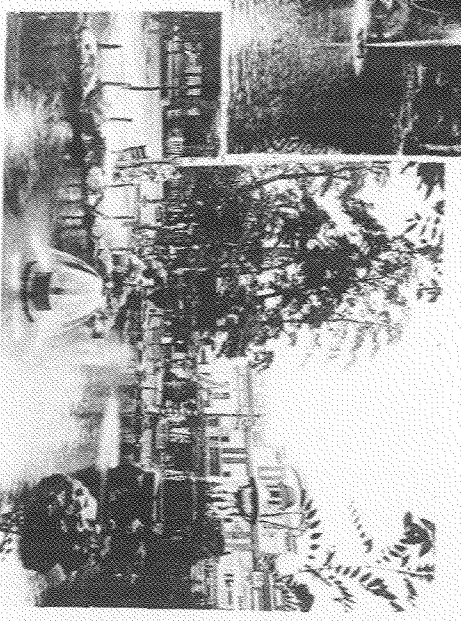




大分縣殖産館

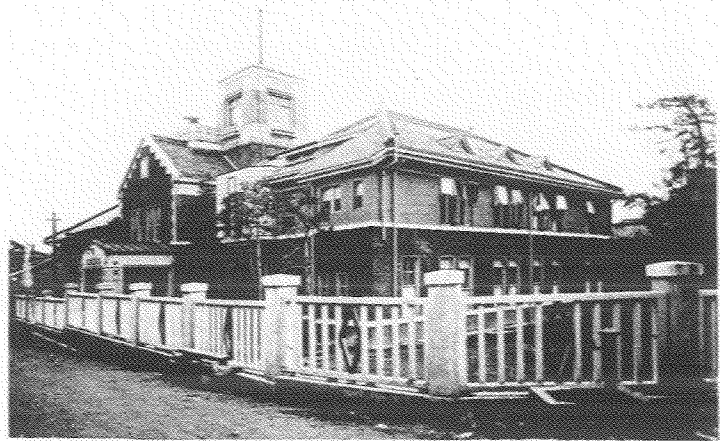


別府公園圖

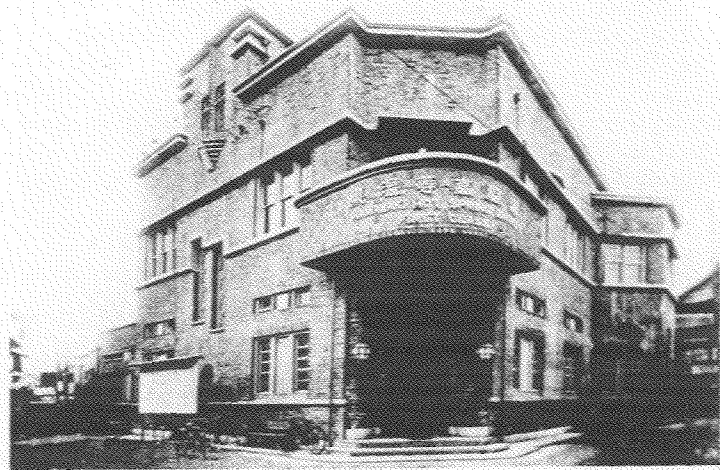


松原公園圖

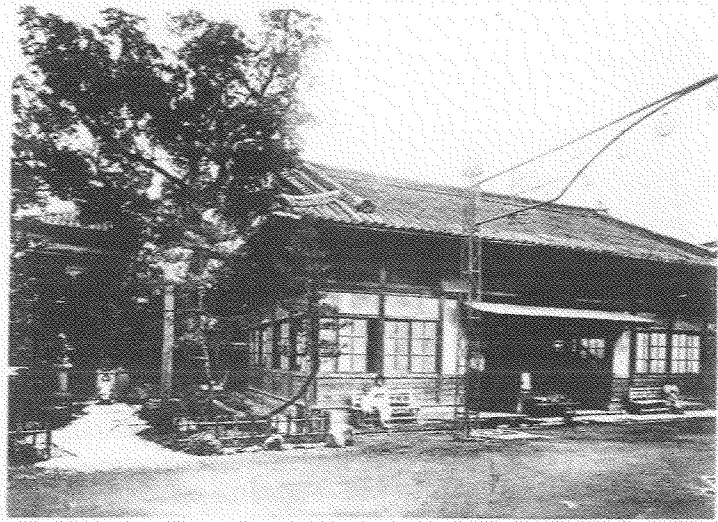




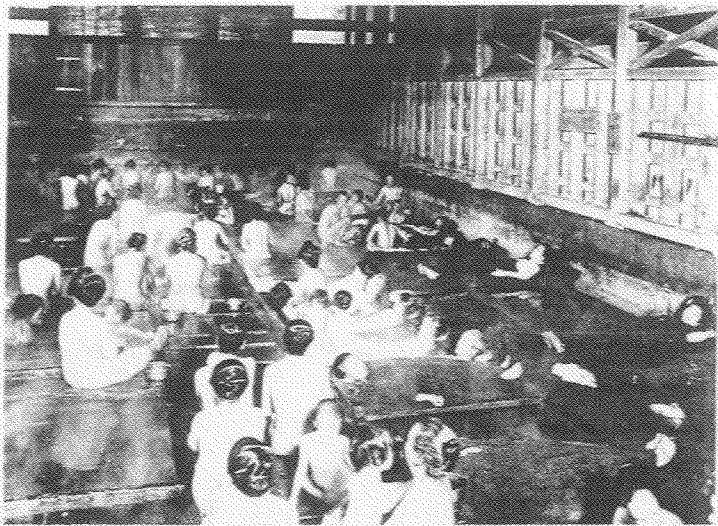
(泉温設市) 泉 老 不



(泉温設市) 泉 温 協 演



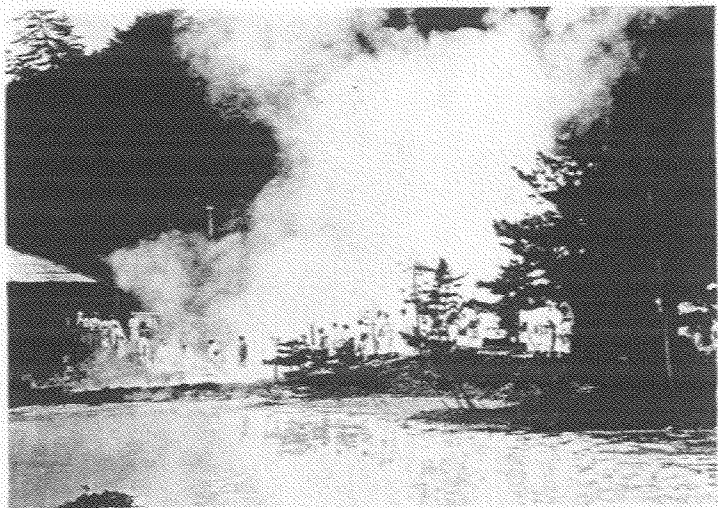
(設市) 泉 温 桶



(設市) 泉 温 天 竹

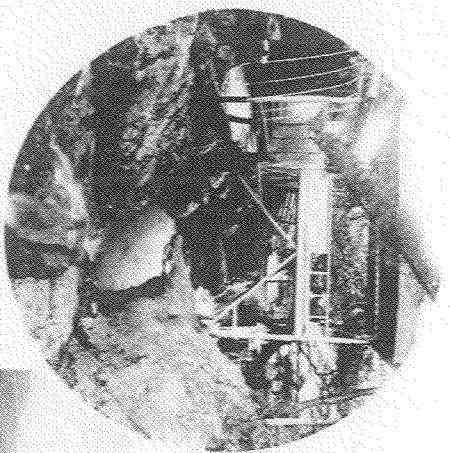


流川通全景

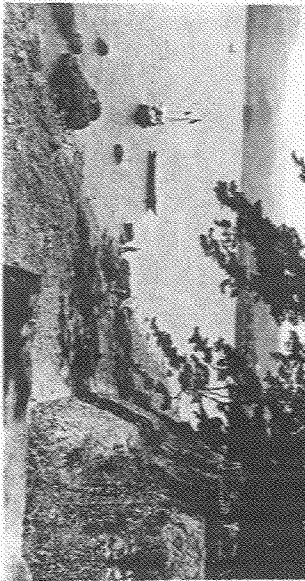


海地獄





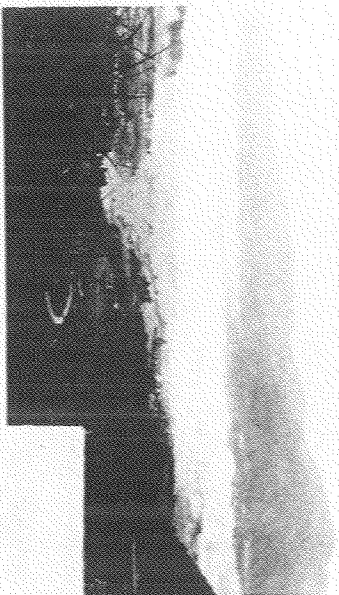
景八府別  
流溪石梁



岸瀨ノ下壘出口・景八府別



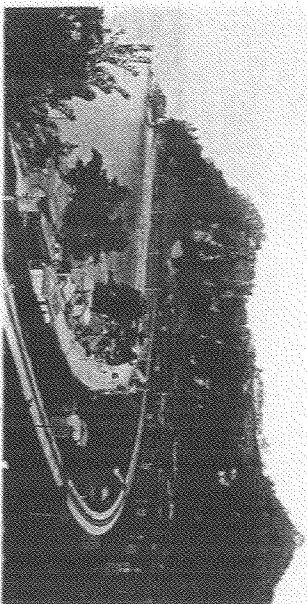
庄見鶴・景八府別



(霞朝) 郷仙臺由・景八府別



景八府別  
(園公臨霞) 園公東



園公崎佛・園三府別

## 凡 例

- 一、本書は別府市勢の一斑を知るの便に供せんが爲め編纂刊行せるものにして市役所主管外の事項と雖も必要と認めたるものは之を掲載せり
- 一、本書は主として昭和七年中の事實を掲げたるも其の變遷消長を通覽するの要あるものは累年表とせり
- 一、表中何年とあるは歴年の調にして何年度とあるは會計年度の調なり

昭和九年一月

別 府 市 役 所



# 昭和七年別府市勢要覽目次

地誌及沿革	一
市役所位置	三
第一氣 候	三
一、氣温及天候	三
二、降霜雪期	三
第一土 地	三
一、面積及廣袤	三
二、官有地	四
三、民有地	四
第二戶 口	五
一、戶數及人口	五
二、人口累年比較	六
三、大字別戶口	六
四、人口動態	七
五、海外在留人	七

六、職業別戶口	七
第四教 育	八
一、幼稚園	八
二、學齡兒童	九
三、小學校	九
四、小學校卒業兒童	九
五、市立實業學校	一〇
六、市立圖書館	一〇
1、藏書數調	一一
2、閱覽人員及書籍別調	一一
七、青年團	一一
八、女子青年團	一二
九、青年訓練所	一二
一〇、少年團	一二
一一、教育會	一二

第五兵 事	三
一、兵役服務人員	三
二、徵兵人員	三
三、壯丁體格檢査成績	四
四、壯丁教育程度	四
五、海軍志願兵	四
第六社寺及教會	三
一、神社	三
二、寺院	三
三、說教所	三
第七恤 救	六
一、日本赤十字社	六
二、愛國婦人會	六
三、海員救濟會	七
四、恩賜財團濟生會	七
第八社會事業	七

一、行路病人及死亡人取扱	七
二、市立職業紹介所	八
1、求 人 數	八
2、求職者數	八
3、紹介者數	八
4、就職者數	九
5、就職者年齡別	九
6、求職者教育別	一〇
7、求人、求職、就職者職業別	一〇
三、窮民救助	一〇
四、養老事業	一一
五、託兒事業	一一
第九衛 生	一三
一、醫 事	一三
二、種 痘	一三

三、トラホーム治療成績	三
四、埋火葬人員	三
五、汚物掃除	三
六、市立傳染病院	三
七、別府市醫師會	三
八、大分縣齒科醫師會別府支部	三
<b>第十水 道</b>	三
一、用地及水管	三
二、諸 池	三
三、栓數、使用戶數及使用料	三
四、給水量	三
<b>第十一 溫 泉</b>	三
一、溫泉 數	三
二、公設浴場	三
<b>第十二 交通運輸</b>	三

一、道 路	三
二、船舶車輛	三
三、別府驛濱臨驛乘降人員	三
四、別府驛濱臨驛取扱貨物	三
五、別府港乘下船人員及貨物	三
六、電 車	三
七、郵 便	三
八、電 信	三
九、電 話	三
一〇、電話事務從事員	三
<b>第十二 產 業</b>	三
一、工 業 物	三
二、農 產 物	三
1、米 麥	三
2、農產物ノ一	三

3、農產物ノ二	三
4、別府市農會	三
<b>三、水 產 物</b>	三
1、沿岸漁獲物	三
2、水產製造物	三
3、水 產 會	三
<b>四、畜 產 物</b>	三
1、牛 乳	三
2、屠 殺	三
3、鷄	三
4、鷺	三
5、豚	三
6、家 兔	三
<b>五、林野產物</b>	三
1、林 產 物	三

2、公私有林野人工造林	三
六、組合及市場	三
七、瓦 斯	三
八、大分縣殖産館	三
九、煙草賣捌高	三
一〇、鹽賣 捌高	三
一一、郵便切手葉書類收入印紙賣捌高	三
一二、商工會議所	三
<b>第十四 金 融</b>	三
一、銀行預金	三
二、銀行貸付金	三
三、信用組合預金	三
四、信用組合貸付金	三
五、郵便貯金	三

六、郵便爲替	頁
七、振替貯金	頁
八、簡易生命保險	頁
九、郵便年金	頁
一〇、私設質屋營業	頁
第十五 議員及市吏員	頁
一、議 員	頁
二、委 員	頁
三、市 吏 員	頁
四、市會及市參事會	頁
五、文書取扱件數	頁
第十六財 政	頁
一、負 擔	頁
二、租稅課率	頁

三、市一般經濟	頁
四、特別會計溫泉費	頁
五、特別會計水道費	頁
第十七 雜	頁
一、官 公 署	頁
二、警 備	頁
三、私立學校	頁
四、新 聞 社	頁
五、興 行 場	頁
六、家屋新築累年比較	頁
七、旅客延人員	頁
八、名所舊蹟	頁
九、溫泉案内	頁
一〇、地獄巡り	頁
附 錄	頁
別 府 市 街 圖	頁

## 別府地誌及沿革

### 地 誌

別府市は瀬戸内海の一基點たる別府灣に在り、背後に山布、鶴見の秀峰を負ひ西北は石垣村に接し東南は四極山脈を以つて大分郡八幡村及石城川村に境す。地勢北西より南東に低く朝見川、境川の二流は市の南位北端を縦貫して別府灣に注ぐ市街は南北に沿ふて波光滢影の間に縱横相望み風光明輝四時の雅趣に富み宛然造化の畫圖を展ぶるに似たり加之山河襟帯の形勢は良く氣候を調節し大氣清鮮溫和にして避暑遊樂四時の清遊に好適す温泉は山麓谷間、濱海の別なく到る所に湧出し中に酸性泉あり單純泉あり其の他鹽類、硫黃、炭酸等凡百の礦泉一として備はらざるなし殊に海濱汀渚に湧出する砂湯の如きは獨特の靈泉にして最も能く痼疾を醫す水に鮮鱗陸に青菜ありて日常の食膳嗜好に適し又物産に富む街衢井然人口歳と共に増加し商況常に殷賑を呈せり東は大阪、神戸西は長崎北は門司南は大分市を経て宮崎、鹿兒島、熊本より自由迅速に來遊せらるゝ世界的浴客は入りて清遊に禮讚し出て、再遊を想ふ今や市街伸展更に一段を加ふるものあり

### 沿 革

別府は古昔遠見の濱又は速見瀉と稱へ王朝の時代は豊後の國府の治下に屬し文治建久の交より鎌倉



府の所轄に歸し大友左近將監能直は命を前後二豐の守護職に受け豊後に下りて歴世府内に城居して其の任國を統治したり大友氏世を襲ぐこと二十二代年を歴るもの三百九十八年にして亡滅す文錄二年なり豐太閤其の土を收めて一旦檢地を行ひ更に之を數個の功臣に領てり當時別府は公領として日田布政所の管轄に屬したりしが徳川氏の時日田代官所の支配所となり代官所は大分郡高松村に陣屋を置き此の地をも管轄したり維新後明治二年日田縣は支廳を此處に設け以つて管内數個の郡村を管地せしめたるが次で豊後國內の諸縣を廢し大分縣を大分郡府内に置かるゝに當り管内を劃して八大區となし速見全郡を第二大區とし會所を舊日田縣別府假出張所に設け以つて第二大區一圓に係る事務を處辨せしめたり時に明治五年六月なり次で六年三月に至り大區會所を廢し各大區に小區を劃し用務所を別府に設置せられたり次いで十一年十一月郡町村を編成せらるゝに當り十五小區の聯合四ヶ村は各自一ヶ村として獨立せり明治二十二年四月一日町村制を施行するに當り濱臨は濱臨村別府は別府村を設置す明治二十六年濱臨村を濱臨町別府村を別府町と改稱し明治三十九年四月兩町を合併し別府町を設置す

爾後鐵道の開通と共に海陸の交通開け別府温泉の名漸く世に知られ外來の浴客年と共に増加し街衢擴大人口稠密し大正十三年四月一日遂に市制の施行を見るに至れり

市役所位置 別府市秋葉通り四丁目 北緯 三三度十六分 一三八秒 東經 一三一度三十分 二十二秒

第一 氣候

一 氣溫及天候

最 高	最 低	平 均	天 候
示 度 一 月 日	示 度 一 月 日	平 均	晴 雲 雨 雪
三 五 度 七 月 三 十 一 日	零 下 二 五 度 二 月 十 七 日	一 六 度 二	三 七 九 〇 〇

二 降霜雪期

種 別	終 期	初 期	種 別	終 期	初 期
霜	四 月 十 七 日	十 一 月 十 七 日	降 雪	三 月 十 六 日	翌 一 月 十 三 日

第二 土地

一 面積及廣表



大字名		昭和三十二年		昭和三十三年		昭和三十四年		昭和三十五年		昭和三十六年		昭和三十七年		昭和三十八年		昭和三十九年		昭和四十年	
年次	性別	本籍		入寄留		出寄留		其ノ他		現		在		計		計		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和三十二年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十二年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十三年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十三年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十四年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十四年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十五年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十五年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十六年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十六年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十七年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十七年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十八年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十八年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十九年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和三十九年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和四十年	男	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096
昭和四十年	女	1,036	920	407	450	327	347	256	51	979	1,036	920	1,433	1,373	2,806	2,293	5,100	4,996	10,096

二 人口累年比較

昭和三十二年	昭和三十四年	昭和三十六年	昭和三十八年	昭和四十年
9,792	9,280	10,386	14,510	14,077
				8,233
				4,934

三 大字別戸口

大字名	戸数	男	女	計
協府	6,344	3,337	3,007	6,344
別府	3,337	1,837	1,500	3,337
計	9,681	5,174	4,507	9,681

四 人口動態

婚	嫁	娶	出	生	死	亡	産	入	寄	留	出	寄	留
3,951	6,344	3,337	1,543	837	5,882	855	2,657	6,744	3,337	1,543	837	5,882	

五 海外在留人

別府	計	大字名	男	女	計
25	164	協府	35	89	124

六 職業別戸口

農業	本業	副業	業	本業従業者	副業従業者	水産	業	業
155	350	155	180	300	155	155	155	155











年 度	一 徵兵人員		二 壯丁体格檢査成績		三 壯丁教育程度		四 壯丁教育程度		五 海軍志願兵	
	志願人員	合格人員	第一種	第二種	第一種	第二種	第一種	第二種	志願人員	合格人員
昭和六年度	三〇	一七	三	三	三	三	七	三〇	一〇	一〇
昭和七年度	二六	一八	七	七	一	七	一〇	一〇	一〇	一〇
計	五六	三五	一〇	一〇	四	一〇	一七	四〇	二〇	二〇

名 稱	一 社		二 寺		名 稱	一 社		二 寺	
	社 格	位 置	社 格	位 置		社 格	位 置	社 格	位 置
八幡朝見神社	郷社	大字別府字朝見	溫泉神社	無格社	大字別府字原	秋葉神社	村社	全	大字濱脇字赤野
愛宕神社	全	全	波止場神社	全	全	八坂神社	全	全	大字濱脇字赤野
秋葉神社	全	全	天滿神社	全	全	住吉神社	全	全	大字濱脇字赤野
秋葉神社	全	全	天滿神社	全	全	天滿神社	全	全	大字濱脇字赤野
住吉神社	全	大字濱脇字上ノ町	明神神社	全	全	天滿神社	全	全	大字濱脇字赤野
天滿神社	全	大字別府字境	金比羅神社	全	全	天滿神社	全	全	大字濱脇字赤野
寶滿寺	天臺宗	大字濱脇字堂ノ前屋敷	松音寺	臨濟宗	大字濱脇字赤野	寶持寺	全	全	大字別府字境
新善光寺	淨土宗	大字別府字郷谷	寶持寺	全	大字別府字境				
昭和六年度	三〇	二〇	二六	一八	二	二	二六	一八	二
昭和七年度	二六	一八	二六	一八	二	二	二六	一八	二
計	五六	三八	五二	三六	四	四	五二	三六	四



前年ヨリ越 シタルモノ	本年取扱 タ	計	繰替金扶養 義務者ヨリ徴 収	縣費ノ辨償 ヲ	未決定ノモノ
件数	金額	件数	金額	件数	金額
四	九五、五	四	九	二四	一、二六六
					三
					四七、三

二 市立職業紹介所

1 求人 數

計	男	女	計	男	女
一月	七九	三六	一月	七九	三六
二月	一五	三六	二月	一五	三六
三月	一八九	三五	三月	一八九	三五
四月	三四	三五	四月	三四	三五
五月	一三	二四	五月	一三	二四
六月	二四	二七	六月	二四	二七
七月	一九	一八	七月	一九	一八
八月	二二	四〇	八月	二二	四〇
九月	一四	二五	九月	一四	二五
十月	二〇	二四	十月	二〇	二四
十一月	一八	二〇	十一月	一八	二〇
十二月	九一	九〇	十二月	九一	九〇
計	一、六四	一、五〇	計	一、六四	一、五〇

2 求職者 數

3 紹介者 數

計	男	女	計	男	女
一月	七	一〇	一月	七	一〇
二月	二七	四〇	二月	二七	四〇
三月	一五	三五	三月	一五	三五
四月	三八	二五	四月	三八	二五
五月	二九	二二	五月	二九	二二
六月	一〇	二二	六月	一〇	二二
七月	一三	二六	七月	一三	二六
八月	九	四八	八月	九	四八
九月	一三	四三	九月	一三	四三
十月	一五	二六	十月	一五	二六
十一月	一七	一八	十一月	一七	一八
十二月	八二	四三	十二月	八二	四三
計	二、五〇	一、三三	計	二、五〇	一、三三

4 就職者 數

5 求職者年齢別

計	男	女	計	男	女
一月	三	五	一月	三	五
二月	五	一七	二月	五	一七
三月	九	一六	三月	九	一六
四月	七	二二	四月	七	二二
五月	六	二二	五月	六	二二
六月	四	二七	六月	四	二七
七月	三	一〇	七月	三	一〇
八月	三	一八	八月	三	一八
九月	七	二六	九月	七	二六
十月	二	二六	十月	二	二六
十一月	四	一八	十一月	四	一八
十二月	三	二二	十二月	三	二二
計	八〇	二〇	計	八〇	二〇





五 託兒事業

名稱	經營主體	會員數	職員	保母	園兒	出席	經費	市助成金	備考
別府保育園	佛教婦人會	三〇〇	一	二	在籍	平均	七一、三三	一〇〇	常設

第九 衛生

一 醫事

醫師	齒科醫師	獸醫	藥劑師	產婆	看護婦	鍼灸按摩	藥種賣	藥醫師一人	產婆一人	市内病院數
三	二七	二	三	三	二六	四六	五	九	七五	一三九

二 種痘

期別	公	善	感	不	善	感	計	私	善	感	不	善	感
第一期	九七	二四	三	一	三〇	一、二九	九〇	五	一	三			
第二期	九七	二四	三	一	三〇	一、二九	九〇	五	一	三			

三 トラホーム治療成績

種別	性別	要診人員	受診人員	治療人員	現患者	トラホーム以外ノ患者
壯丁	男	二四	六六	二二	八	五
小學校兒童	女	六三	六一	二七	二六	五九
計	男	三二	一二九	四九	一、二〇	七
	女	六三	六一	二七	二六	五九
	計	九五	一七〇	七六	一、四六	一六

四 埋火葬人員

性別	埋葬	火葬	他町村火葬	計
男	五五	三八〇	二〇二	六三六
女	四四	三六	二七	五九
計	九九	四一六	二三九	一、二六五

五 汚物掃除

計	一、二六五
---	-------

吏員	掃除員	監督員	掃除員	人夫	車	糞	汚汁	公共	汚物	糞	汚汁	汚泥	計	掃除
一	三	一	一	一	一	一	一	四	四、九三、七五〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	五、五三、七〇〇	九、四四、七〇〇	九、四四、七〇〇

### 六 市立傳染病院

目的 患者收容ノ際ハ市醫ヲ派遣シ治療ス

### 七 別府市醫師會

昭 和 七 年 度	會 員 數	會 長	副 會 長	理 事	評 議 員	經 費
五	一	一	一	四	五	一、五二〇〇

### 八 大分縣齒科醫師會別府支部

昭 和 七 年 度	會 員 數	會 長	副 會 長	理 事	經 費
五	一	一	一	五	三、九四三

## 第十 水道

### 一 用地及水管

水道用地	送水	鐵管	配水
一町九反四步	一、三五七米(口經十二吋)	五四四米(口經八吋)	四二、九一四米
	五五五米(口經十四吋)	五五五米(口經六吋)	

### 二 諸 池

名 稱	池 數	池 容	太 陽
貯水池	二	乙原貯水池 一池 二、五五、六平方米 鮎返貯水池 一池 九、一八、八平方米	
濾過池	七	新設濾過池 四池 一、五三、四平方米 既設濾過池 三池 一、四七、〇平方米	
配水池	四	新設配水池 二池 一、三〇、〇平方米 既設配水池 二池 一、二〇、七平方米	

### 三 栓數、使用戶數及使用料

種 別	栓 數	戶 數	使 用 料
專用栓	二、八九	二、八九	五、三三、二五



共用程	公設	1,000	2,597.56
消火程	私設	181	767.56
	公設	46	

園給水量

給水總量	最	多	最	少	平均
2,287.56 立方米	七月廿二日 9,000 立方米	一月一日 5,200 立方米	7,200 立方米		

第十一 温泉

一 温泉數 (表中△印ハ礦泉浸出願及許可數ヲ示ス)

名稱	設備	種	類	主	治	効	能
公有一私有一計	現在	本年穿掘許可ノモノ	本年穿掘中願ノモノ	本年所有權異動數			
△二 一、二、三、四、五	△三 三	△四 四	△五 五	△六 六	△七 七	△八 八	△九 九
二 公設浴場							

不老泉	市營	碳酸泉、無色透明、無臭、清涼味ヲ有ス	消化不良、婦人生殖器慢性諸病、痛風
靈瀨泉	全	碳酸性含鹽泉、全右	關節痠痛、腎臟及膀胱加答兒
濱臨温泉	全	碳酸性含鹽泉、微白濁、無臭稍々酸味	關節痠痛、萎黃病、血管硬化症
竹瓦温泉	全	碳酸性含鹽泉、無色透明、稍々酸味	關節痠痛、頑固ノ潰瘍病的組織肥大
楠温泉	全	碳酸泉、無色透明稍々酸味	食思缺乏、慢性下痢、慢性肋膜炎、慢性腹膜炎
田ノ湯温泉	全	碳酸泉、白色半透明	消化不良、皮膚病、神經痛
海門寺温泉	全	碳酸性、鹽類泉無色透明	神經痛、半身不隨、皮膚病、婦人生殖器疾患
海岸砂湯	全	碳酸泉、全右 無色透明	關節痠痛、神經痛、婦人生殖器疾患
壽温泉	區營	碳酸泉、無色透明	婦人生殖器疾患、神經系諸病
日ノ出温泉	全	碳酸性含鹽泉、無色透明	半身不隨、攝護腺炎、皮膚病
柳温泉	全	碳酸性單純泉 全右	皮膚病、痲痺性疾患
梅園温泉	全	全右	ヒステリー、腺病質

區	別	國	道	縣	道	市	道	計	
第十二 交通運輸									
一 道 路									
藥師溫泉	紙屋溫泉	春日溫泉	的ヶ濱溫泉	靈砂泉	弓松溫泉	此ノ花溫泉	萬歳溫泉	永石溫泉	野口溫泉
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
炭酸性單純泉無色透明	炭酸泉、白色混濁	炭酸泉、無色透明	炭酸性鐵類泉、無色透明	炭酸性弱鹽泉、無色透明	アルカリ泉、無色透明	炭酸性單純泉、無色透明	全 右	炭酸性單純泉、無色透明	炭酸性、白色混濁
關節僵麻質斯、麻痺性疾患	秘尿生殖器諸病、慢性腎臟病	腎臟炎、膀胱加答兒、生殖器諸病	關節僵麻質斯、脊髓疾患	關節僵麻質斯、婦人生殖器疾患、瘡風	糖尿病、腎孟炎貧血	神經衰弱、麻痺性疾患	全 右	攝護線炎、神經衰弱	皮膚病、消化不良、神經痛

月	別	乘 車 人 員			降 車 人 員			收 入
		一 等	二 等	三 等	一 等	二 等	三 等	
一 月	三	一、七三	三、六二	二、七六	六、八	八、九六	七、八四	別府驛 乘客賃金 五七、三九 入場券發賣數 五、七九 全金額 四、三三
二 月	三	一、五七	三、四三	二、六五	八	八、〇三	六、三〇	定期乘車券發賣數 八、六六
三 月	三	一、四七	四、〇四	三、〇九	五	八、八六	八、〇八	
四 月	三	一、七〇	四、二二	三、四〇	六	七、四〇	六、一七	
五 月	三	一、三三	四、〇、二三	三、九八	六	一〇、六五	九、〇六	

別	延 長	面 積
自動車	一、三三間	二、〇〇間
自轉車	一〇、六八坪	二、七〇坪
二 船 舶 車 輛	三、三八間	一、四、六八坪
家用二輪車	二、五三	五
自轉車	五	三四
荷車	三	二二
荷馬車	三	二
牛車	三	二
カリア	三	二
附屬	三	二
艇魚船	三	二
遊船	三	二
小廻船	三	二
噸數船	三	二

種別	數量	金額	種別	數量	金額
發送貨物	六三三、〇〇疋	五、三五〇、〇五	發送貨物	六八〇、七六六疋	七、四九四、七九
全手荷物	三八、八六個	五、〇九八、四四	全手荷物	四、四九六個	四〇九、二五
全小荷物	二、六九八個	二、七七七、六	全小荷物	三、四八七個	一、九〇一、一九
到着貨物	二、五四五、〇〇疋		到着貨物	七四一、〇九疋	
計	六、三六六	一二、二二六、五五	計	一、一六五、三六	一二、四九七、七〇
六月	一、〇六七	二六、六〇〇	六月	六、七五	五九一、
七月	一、五二〇	二八、一三三	七月	七、五九二	六、五七
八月	一、二六九	三三、六五五	八月	八、九九二	八、五〇
九月	一、五二一	三〇、七七一	九月	六、四九六	六、七三
十月	一、二六六	三二、一八三	十月	六、二〇一	六、九〇
十一月	九六六	二二、八三三	十一月	五、三六四	四、五四
十二月	六三三	五三、三三三	十二月	四、五二四	一、三、九〇七
計	二六、三六六	三六〇、三三三	計	六三、三六六	五、四〇六、三三

四 別府驛濱脇驛取扱貨物

全手荷物	四一、七三個	全手荷物	三、五五個
全小荷物	四、九〇個	全小荷物	一、九六個

五 別府港乗下船人員及貨物

月別	乗船人員	下船人員	貨物	月別	乗船人員	下船人員	貨物
一月	二、五九六	一〇、〇九四	發送貨物 八九噸	八月	一五、二九四	三、三五五	
二月	一〇、一〇五	八、二二〇	噸數 八九噸	九月	一一、〇〇六	八、五五五	
三月	一五、〇四六	三三、一五三	金額 四八七、五〇圓	十月	一四、三三二	二二、〇〇一	
四月	一六、八〇五	一五、二八八	到監貨物	十一月	一〇、五八九	八、五二〇	
五月	一八、一〇九	一六、三四二	噸數 八五噸	十二月	八、二九六	八、三九一	
六月	二二、七八八	九、七八八	金額 一、二六、三〇圓	計	一五、二六五	一三四、六二四	
七月	三、九五〇	二、八〇八					

六 電車

乘車人員	一〇、九、九二二人	下車人員	一〇、九、九二二人	賃金	九四、〇二〇、四八
------	-----------	------	-----------	----	-----------







トウモロコシ(玉蜀黍)	三	二	八	七〇〇	八、〇〇〇
ソバ(蕎麥)	二	八	七	七〇〇	三、〇〇〇
サツマイモ(甘藷)	七	七	七	七〇〇	一、〇〇〇
ジャガイモ(馬鈴薯)	七	七	七	七〇〇	一、〇〇〇
コンニャク(芋)	八	七	七	七〇〇	一、〇〇〇
ゴマ(胡麻)	七	八	七	七〇〇	一、〇〇〇
インゲン豆(菜豆)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
ネウリ(胡瓜)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
シロウリ(越瓜)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
カボチャ(南瓜)	九	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
スイカ(西瓜)	四	八	〇	四〇〇	一、〇〇〇
ナス(茄子)	四	八	〇	四〇〇	一、〇〇〇
トマト(蕃茄)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
エンドウ(豌豆)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇
ソラマメ(蚕豆)	五	五	五	五〇〇	一、〇〇〇

計 七六六 一 六、五五

3 農産物ノ二

種別	樹形	收穫高	價格	單價	種別	樹形	收穫高	價格	單價
密柑	一、二五	三、四五	一、〇五	三、三〇	ブドウ(葡萄)	五	四〇	二、六〇	七、〇〇
ネーブル、オレンヂ	二四〇	六〇〇	一、八〇	三、三〇	モロコシ(枇杷)	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	五、〇〇
ナツミカン(夏橙)	三五〇	一、五五	二、三六	三、三〇	ウメ、梅	六〇〇	一、一〇〇	三、六〇	三、〇〇
其他ノ柑橋類	四〇〇	一、〇五	二、五八	三、三〇	計	四、六六〇	一、四、七五九	一、四、七五九	一、〇〇
生柿	四〇〇	三、五〇	三、七六	三、三〇					
干柿	一	四〇〇	二、四〇	六、三〇					

4 別府市農會

年度	會員數	會長	副會長	幹事	總代評議員	病虫害防除督勵員	書記	技手	經費
昭和七年度	一、一〇一	一	一	一	二〇	一〇	三	三	二、五〇



種別	頭數	搾乳業者	搾乳量	價格	單位	高價	昭和七年度	3 水産會		種別	數量	價格	單位	種別	數量	價格	單位	
								會員數	會長 副會長 總代 議員 評議員 理事 書記 技手									種別
1 牛乳							二五九	一	一	二〇	五	一	二二六九	種別	數量	價格	單位	
4 畜産物															スルメ (素乾)	二五〇	一	四、〇〇〇
														ゴマメ (素乾)	四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一	
														イワシ (鹽乾)	二〇〇	一六〇	二、五〇〇	
														サバ (鹽乾)	一	一	一〇〇	
														イワシ (煮乾)	四、〇〇〇	一	二、〇〇〇	
														計	一九、二〇〇	四二、二六〇	一	
														カマボコ	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四、〇〇〇	
														ツクダ	二〇〇	五〇〇	二、五〇〇	
														ミリン	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五〇〇	
														他	二〇〇	一〇、〇〇〇	五〇〇	

種別	數量	價格	單位	種別	數量	價格	單位	2 水産製造物		種別	數量	價格	單位
								數量	價格				
イワシ	二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、五〇〇	トビ	三〇〇	四、〇〇〇	一、五〇〇	イ	二、〇〇〇	コ	二、〇〇〇	一、〇〇〇	
カツラ	二、〇〇〇	一、六〇〇	八〇	ウ	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	タ	二、〇〇〇	カ	二、〇〇〇	一、〇〇〇	
マダラ	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	シ	二、〇〇〇	七、〇〇〇	三、五〇〇	ナ	二、〇〇〇	ロ	二、〇〇〇	一、〇〇〇	
ブヒ	五〇〇	一、七〇〇	二、五〇〇	コ	二、〇〇〇	七、〇〇〇	三、五〇〇	エ	二、〇〇〇	ビ	二、〇〇〇	一、〇〇〇	
クロダヒ	一〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	イ	二、〇〇〇	七、〇〇〇	三、五〇〇	タ	二、〇〇〇	コ	二、〇〇〇	一、〇〇〇	
カレイ、ヒラメ	二、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	ノ	三、〇〇〇	四、〇〇〇	一、三〇〇	マ	三、〇〇〇	マ	三、〇〇〇	一、〇〇〇	
サワラ	二、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇	計	一五、二五〇	六、八四五	一、七〇〇	其	一	他	一	一	
アヂ	五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	計	一五、二五〇	六、八四五	一、七〇〇	ナ	一	マ	一	一	







五五〇二立方米

五、三〇、七五

一〇九六

六五

### 八大分縣殖產館

開館日數	來觀人員	物品販賣點數	全上金額	經費
三五	九、二七	七〇、五	五、五八	一七、七四

### 九煙草賣捌高

元賣捌所數	小賣人數	內地		製	內地葉卷及 輸入煙草	合計
		口付	兩切			
二	二七	一四、〇三	一五、八九	五、〇四	三、三五	三五、一九

### 一〇鹽賣捌高

元賣捌所數	小賣人數	賣上數量	賣上價格
一	七五	三五、四二、六五	一〇、〇六、九

### 一一郵便切手葉書類收入印紙賣捌高

計	五、〇八、〇〇	計	一〇、四七、四〇
---	---------	---	----------

以手葉書類	收入	印紙	計
五、三六、〇〇		五、〇八、〇〇	一〇、四七、四〇

### 一二商工會議所

名	稱	創立年月日	議員數	常議員數	顧問數	理事書記數	經費豫算
別府商工會議所		昭和四年十月四日	四	七	二	一	一〇、〇六

### 第十四 金融

#### 一 銀行預金

行	數	前年繰越高	本年預金高	計	拂戻高	年末現在
		六四、三〇、六四	五、四〇、二四	七、七六、八四	三、二〇、二〇	七、九一、五九
		六、四三、三六	五、四三、七六	二、〇〇、二〇	三、二〇、二〇	四、九五、〇九

#### 二 銀行貸付高

行	數	前年繰越高	本年貸出高	計	戻金高	年末現在
		六二、三三、三七	二、〇〇、六六	六、七五、二四	三、六九	二、七五、二九
		六、七五、二四	三、六九	九、〇六、八〇	六、三〇、二四	二、七五、二九

組合數		前年繰越高	本年預金高	計	拂戻高	年末現在
		二,四四,九一,九〇	三,四八,四三,一八〇		四,八七,三四,一〇〇	三,六七,二二,〇〇〇
組合數		前年繰越高	本年貸出高	計	戻金高	年末現在
		二,〇三,八九,七九〇	一,二五,三八,三三〇		二,二七,二九,一五〇	一,二九,四八,二〇〇
						七四,〇〇,〇〇〇
<b>三 信用組合預金</b>						
<b>四 信用組合貸付金</b>						
局數		預	入	拂	戻	年末現在高
		金	口	金	口	金
四二,〇〇,六七,九〇		額	數	額	數	額
		完	一,三六,一五,七五	二,四,六七		二,〇五,六九,〇〇〇
<b>五 郵便貯金</b>						
<b>六 郵便爲替</b>						
局數	金	振	替	拂	渡	
	額	一件	數	金	額	一件
	八,五五,〇〇〇		二〇二		一四,五六,〇〇〇	
		契約口數			契約口數	
		二〇二			二一九	
		新			年	
		規			末	
		額			現	
		一四,五六,〇〇〇			八五五,〇〇〇	
		契約口數			契約口數	
		二〇二			二一九	

三 信用組合預金

四 信用組合貸付金

五 郵便貯金

六 郵便爲替

七 振替貯金

八 簡易生命保険

九 郵便年金

局數		前	現	新	契	年	現
		年	在	規	約	末	在
		額	口數	額	口數	額	口數
四		八,五五,〇〇〇	二〇二	一四,五六,〇〇〇	二一九	八五五,〇〇〇	二一九
局數		前	現	新	契	年	現
		年	在	規	約	末	在
		額	口數	額	口數	額	口數
四		一五,三二,〇〇〇	一九,九八八	二,三六,〇〇〇	三五三	一七,六八,〇〇〇	二二,二八七
局數		前	現	新	契	年	現
		年	在	規	約	末	在
		額	口數	額	口數	額	口數
四		一,七七,零二,二六	一九,二五二	二,五五,五八,五七	三五三	三,六六二	
局數		前	現	新	契	年	現
		年	在	規	約	末	在
		額	口數	額	口數	額	口數
四		三六,三六,八〇〇	三〇,四八八	一,二五,二七,二五	二一九	四,五二,一五〇	





入	歳	營業稅附加稅	雜種稅附加稅	其他	電柱稅	寄附金
國庫補助金	國庫下渡金	交竹金	收用材料及手数料	財產ヨリ生スル	縣費補助	市計債
二、〇五〇	二、五二四	三、六八九	四、八四八	三、三二七	二、〇〇二	一、三五五
綠	財產賣却代	負入金	縣費補助	二、〇〇二	寄附金	一、三五五
一、〇〇〇	一〇、六九六	一五、五〇〇	三、七五七	二、〇〇二	寄附金	一、三五五
	市計債	市計債	市計債	市計債	市計債	市計債
	五七、〇〇〇	三五、〇〇〇	九七、七三三	一、二〇〇	一、六〇〇	四、二八〇

三市一般經濟

種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當	市稅一人當
一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五	一六、七五五
市稅類別	市稅類別	市稅類別	市稅類別	市稅類別	市稅類別	市稅類別	市稅類別
營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅	營業稅附加稅
八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三	八、二七、四三
市稅課率	市稅課率	市稅課率	市稅課率	市稅課率	市稅課率	市稅課率	市稅課率
一、三二五	一、三二五	一、三二五	一、三二五	一、三二五	一、三二五	一、三二五	一、三二五
地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅	地租附加稅
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅	營業收益稅附加稅
六、六八	六、六八	六、六八	六、六八	六、六八	六、六八	六、六八	六、六八
特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅	特別地稅附加稅
〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅	家屋稅附加稅
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

二租稅課率



歲出	水道費	五、三六	公債費	五、三三	計	一〇、六九〇
雜支	支出	二、八四	備費	一、六六		
臨時部	配水擴張費	二、〇六	計	二、〇六一		
						一三、三九〇

第十七 雜

一官公署

名	稱	電話番號	位	置
別府警察署	別府警察署	空	空	大字別府松原區泉町
別府郵便局	別府郵便局	一、〇〇〇	空	大字別府中濱通り五丁目
竹瓦郵便局	竹瓦郵便局	空	空	大字別府竹瓦
行合郵便局	行合郵便局	一	空	大字別府字行合町
濱脇郵便局	濱脇郵便局	空	空	大字濱脇字上ノ町
大分區裁判所別府出張所	大分區裁判所別府出張所	空	空	大字別府中濱通り七丁目
大分縣殖産館	大分縣殖産館	空	空	大字別府中濱通り七丁目
公訟人役場	公訟人役場	空	空	大字別府中濱通り七丁目

別府市役所	別府市役所	一、〇〇〇	全	秋葉通四丁目
別府商工會議所	別府商工會議所	空	全	彌生町

二警備

別府市消防組	別府市消防組	大正十三年十一月十九日	二	三	一	三	三	二七〇	三九	水道完備	水壓九十ポント
--------	--------	-------------	---	---	---	---	---	-----	----	------	---------

◎別府市水道課ニ市設消防隊ヲ置ク

三私立學校

別府美髮女學校	別府美髮女學校	大正十五年八月十日	八ヶ月	七	五	三、一〇〇人	寄宿舎設備
別府裁縫女學校	別府裁縫女學校	大正十五年九月二十日	二ヶ年	九	四	一、三〇二人	寄宿舎設備

四新聞社

別府每夕新聞社	別府每夕新聞社	大字別府秋葉通	今日新聞社	全	宇北町
---------	---------	---------	-------	---	-----







たる著名の古戦城なり、頂上は稍々平かにして樹木森々、漫々たる別府灣の湧水と茫漠たる石垣原とを脚下に俯瞰し得、附近には其の忠烈の名を千載に傳ふる吉弘公の祀廟、古殺實相寺等あり

【觀海寺乙原高臺】別府の西方に位する高台一帯の總稱にして大別府市街を脚下に俯瞰し豫州、豐澤の大觀滿眸に落下する眺望は古來幾多の詩歌に詠せらる、觀海寺の温泉は建久五年の發見と傳へらる古き歴史を有し其の幽遠なる溪谷美は金比羅山、乙原山上の展望と共に代表的景勝たり

【東公園(別名濱脇公園)】別府の一部にして古き歴史を物語る濱脇南端に起伏する丘陵一帯を稱し其の中心をなす金比羅山に展望絶佳、脚下に進展し行く泉都別府の市街を俯瞰し洋々たる豊後灣の碧波は遠く國東半島の借色に帆影と相映じ、右方位賀關半島は呼べば應へんばかりにて左方遙かに山布、鶴見の秀嶺相連なり山岳美と海洋美と市街美とを一眸の中に集むる所四時之行樂に適し又附近には古來百穴と稱する古墳並列し、北西には河鹿鳴く河内谷の幽遠なる溪谷あり

【日出城下海岸】別府を距る北方約三里、別府灣頭隨一の景勝地にして慶長六年以來木下氏の舊城址なり、城下一帯の海岸には幾百年の星霜を経たる巨木老松生ひ繁り灣内波靜かなるところ漁船往來し宛然一幅の活畫なり、若しそれ中秋の月を眺めんか波に碎くる金波銀波は到底筆舌の克く竭し能はざるところなり、名物に城下鰯あり、又日本一を以つて誇る松屋寺の蒸籠は天然記念物として一日の清遊には恰好の場所なり

【由布仙郷】別府の西方四里、豊後富士の稱ある山布岳西麓の一大盆地にして海拔二千尺、温泉

頗る豊富、風光明媚、盛夏尙晚秋の如き天下の好避暑地なり、別府より羊腸たる坂路を登り鳥居峠を越ゆれば途中廣漠たる鬼島原や神秘的なる猪ノ瀬戸等を過ぎ此の盆地に入れば其の雄大なる景観は泰西の名畫も及ばず他所では味ひ得ぬ優麗崇高なる氣分を漂はせ居れり、巨木老杉の鬱蒼として神さびたる六所權現、清泉湧出して境内閑寂なる若宮八幡社、金鱗湖、銀鱗湖等あり、殊に山布の朝霧は一大美觀たり

【芝石溪流】別府市街の北二里、龜川驛の西方約半里、谿澗幽邃の勝地にして附近に柴の化石の出づるに依りて一名柴石の稱あり、滾々たる溪流悉く靈泉、夏季石を枕に耳を傾くれば内影風を叩んで蟬聲簫風と共に和して落つる快味は此の地獨特にして傍らに 往昔後朱雀帝の御宇、皇太子親仁親王の御湯治遊ばされしと傳ふる御枕石あり、此の地一帯春は櫻、夏は深緑、秋は紅葉によし交通至便なり

### 別府 三勝

【内山溪谷】別府の西方一里、別府扇山溪谷とも云ふ、扇山は鶴見岳の東北にあり明麗にして形扇に似たるにより其の名あり、山肩の南北缺けて一大溪谷をなし蜿蜒里余に亘り鶴見の大峰を天に仰ぎ懸崖數千尺莊嚴極りなく景勝中最も原始的にして溪流あり瀑布あり又温泉の湧出するあり、春夏秋を通じて鶯の鳴くを聞くも面白く背後の山勢急峻なる中腹千古不滅の大楓林あり、特に晚秋の美觀は譬ふるものなし



【志高湖】別府市街の西南二里、海拔二千尺の高原にあり其の周圍約一里、湖面鏡の如く四鏡閑寂恰も太古の如き感ありて全く紅雲を絶つ仙境なり、山布、鶴見の運峰水面に影を落し、春若草の萌え出づる頃緑の夢を繋げたる如き湖畔の芝生に臥牛點々たる好風景は實に一幅の名畫なり、附近には鶴見権現ありアルプスの登山も此の邊より便利なり

【佛崎公園】別府より南一里半、大分に通ずる道路の中途にあり海邊には奇巖怪石磊々として相並び千古の縁を傳ふる「鶴の松」「龜の松」は別府灣の碧波に靜に其の影を映す、山腹には無數の櫻樹あり園内たる所展望佳ならざる所なく此の所より瞰下する別府灣の風光は近郊無比と稱せられ居れり特に夜櫻は其の名高く電車の頻頻繁なり

#### 其の他の名所舊蹟

【別府公園】本市の西端別府驛の西方約七丁、本市唯一の森林公園なり公園入口右手には大分縣殖産館あり縣内の物産を陳列即賣せり又公園と隣接し野球場の設備あり、總面積六千七百七十五坪一合三勺、グラウンド實用面積三千三百九十七坪六勺、スタンド面積七百三十一坪余外野面積千九百五坪一合四勺にして收容人員約一萬千七百二十五人、内スタンド收容人員六千二百五十人なり

【松原公園】市の中央にある唯一の街路公園にして八幡朝見神社の御旅所を中心に池と噴水とに配するに櫻樹を以つてし春宵の散策に、夏の夜の納涼に好適なり、園内並に附近には劇場、活動寫眞常設館等あり

【海門寺公園】市の北部市街地にあり、數百年を経たる老松を背景として山水を配したる純日本式閑靜なる庭園にして園内に百花百草を植へ、小動物舎、禽舎あり、市内唯一の小兒遊戯場なり。是れと並ひて曹洞宗の巨刹海門寺あり杖を曳く者多し

【別府の大佛】別府驛を距る西北十三町にあり。高さ約九十尺の釋迦像にして奈良の大佛より高き事約三十尺拇指の周圍六尺八寸東洋第一の稱あり

【つゝじ公園】別府公園を距る西五丁、全園つゝじを以つて充たされ満開の美觀言ひ様なし

【山水園】つゝじ園の西三丁、故麻生太吉氏の所有に係り園内幽邃にして林泉の配置、亭樹の結構善美を盡せり、殊に滿園數百株の櫻樹を植栽し花時には一般に公開し遊客の觀賞に委す

【鶴見園】鶴見ヶ丘にあり眺望絶佳、總面積五萬坪、各種の娛樂機關あり温泉、食堂、俱樂部、休憩室、宴會場、家族温泉等完備す、毎日午前余興午後歌劇等あり一日の享樂に適する遊園地なり

【ケーブルカー】別府港棧橋より西十七丁にあり、日本に於ける最短最急勾配のものたり、ケーブルを上げれば乙原高台遊園地あり園内に食堂、娛樂場、余興場等あり一日の遊覽に適す

【京大物理學研究所】別府公園の西北九町にあり、赤煉瓦の近代式大建築にして敷地一萬九千坪京都帝國大學の附屬たり地震、地質温泉に關する基本的調査研究を試みつゝあり

【滿鐵別府療養所】別府市街を去る西に十六町、地積五千六百坪、風光の美を富む

【九大温泉治療學研究所】別府驛を去る西北一里別府八景の一なる石垣原の高台にあり、敷地

三萬坪土地高懸懸室絶佳本郡に於ける唯一の温泉治療機關なり毎日別府港棧橋より自動車の便あり  
【明治維新の元勳井上馨侯、千辛萬苦の場】別府驛より西南五丁市公會堂境内にあり元治元年  
九月故侯爵が山口城外袖付橋畔に於て俗論派の兇刃に撃たれ後別府に亡命若松屋主人松尾彦七及侯  
客難龜の仁侠に匿はれ創痍を養ふの傍ら維新の大業を畫策せる所にして其後明治四十四年五月侯は  
再び別府に來たり舊恩を謝する爲め若松屋を訪ひ四十七年前潛伏せし室に入り往時を追懐して感慨  
に堪えず直に筆を執つて、「千辛萬苦之場」と書し之を楯間にかゝげたる由緒ある建物なり

### 九 温泉 案内

海の温泉！山の温泉！廣く別府温泉と云ふときは別府市、觀海寺、鐵輪、堀田、明礬、芝石、龜  
川、新別府、山布院、塚原の十湯、所謂横灘十湯を指すもので鶴見山を中心としたる方三里の地域  
の總稱である、之等の温泉は各々獨自の特徴を有し泉質は多種多様にして海に山に或は丘に年中絶  
え間なく隨所に湧出し、交通は至便に、氣候は温和に、四時の風光亦頗る明麗なれば避暑に、遊覽  
に、療養に、人生の安息所、避難所として好適の地なり、然して此の一大温泉郷の首部は我が別府  
市にして浴場、旅館は勿論あらゆる娛樂機關、治療機關に至るまで一として備はらざるなく、理想  
的の温泉地として其の名は世界的に謳はれてゐる

今市内に於ける主なる浴場を擧ぐれば次の如し

#### 【海岸砂湯】

海濱一帯潮が退けば其の干潟には滾々として神代ながらの靈泉が泡立ちつつ湧出し

てゐる其の處を僅々五六寸掘り下げて身を横たへ、暖砂に埋まれば暫時にして全身自ら温り水平線  
の彼方に浮き出でたる四國の島々を寝ながらにして眺めつゝ、オゾンを滿喫し、のたりのたりと  
寄せては返す波の音に必ずや無我の境に誘ひ込まれるであらふ、現在市營の海岸砂湯は棧橋北側と  
北濱海岸とにあり、泉質は炭酸性鹽類泉にしてラヂウムを含むと言はれ、萬病に効き殊に神経痛レ  
ウマチスには卓効あり

#### 【靈潮泉】

別府港棧橋の西側にある市營の大浴場にして建物は和風の宏壯なる平家建なり男  
女各浴場共に各一個の泉浴と數個の臥湯及砂湯とを備ふ、泉質は炭酸性含鹽泉にして無色無臭なり  
胃腸病（内用）慢性レウマチス（浴用）等に特効あるの外、筋肉疾患、咽喉諸症にも効能あり  
尙同浴場には名物蒸湯ありて男女湯の二室に分れ腦病其他諸病卓効あり

#### 【竹芝温泉】

別府港の西北一町餘に在る木造二階建の市營大浴場なり階下を男女二湯に區切り各  
湯共に各一個の泉浴と數個の臥湯と砂湯とがあり階トは九十疊敷の大廣間にして入浴者の休憩に便  
す、泉質は炭酸性鹽類泉にして無色透明なり、神経痛、レウマチスに偉効ありて四六時中入浴者絶  
へず

#### 【楠温泉】

別府港の西南四丁にある市營の大浴場なり、男女各湯共に大なる浴槽一個を有す、  
泉質は炭酸性にして無色無臭なり疝癢、筋肉疾患、惡瘡に奇効あり

#### 【不老泉】

別府驛の南方約三丁に在る和洋折衷の市營大浴場なり、階下は並湯、上等湯、瀧湯  
家族湯、蒸湯に分れ、二階は浴客休憩室、食堂に充てられ三階には展望台の設備あり、浴後此處に



上れば別府市一圓を双眸の裡に收むることを得、泉質は炭酸泉、無色透明なり、神経系諸病(浴用)胃腸病(内用)に特効あり

【濱脇温泉】 濱脇驛の北方三丁余に在る市營の大浴場なり建物は鐵筋混凝土の宏壯なる三階建にして濱脇の持つ唯一の共同温泉なり、階下は並湯、高等湯の二つに分れ高等湯は泉浴、蒸湯、砂湯に分れ並湯は男女湯共に三個の大泉浴と二個の砂湯及臥湯とある外、階上には家族湯、休憩室等あり、尙三階には宴會場の設備あり、屋上庭園は何人にも開放され散策に運動に或は浴後の納涼に便す、泉質は鹽類泉にしてレウマチス神經痛に特効あり

【田の湯温泉】 別府驛の西南四丁にある市營の浴場なり、木造二階建にて階上は休憩室、階下は浴場に充てらる、泉質は市内唯一の硫黄泉にして肌觸り軟く諸瘡、皮膚病に神効あり

此の外壽温泉、柳温泉、藥師温泉、梅園温泉、紙屋温泉、二條泉、春日温泉、朝見温泉、日の川温泉、靈砂泉、末廣温泉、萬歳温泉、此花温泉、老松温泉、秋葉温泉、瀧見温泉、的ヶ濱温泉、海門寺温泉、野口温泉等幾多の温泉浴場ありて多種多様、四百四病に夫れの特効を持つて居る市内に於ける一千三百有余の温泉孔より湧出する泉量は一晝夜實に十五万石を超ゆ

## 一〇 地獄巡り

別府入湯の人々が旅の埃も落しもあえず、必ず行くものに地獄巡りあり、窪き地點より吹き揚ぐる熱湯、熱泥、熱氣の凄慘絶は徐ろに怪奇的の目を眩らせる

【八幡地獄】 觀海寺温泉の西北六丁、別府より最も近き天然の地獄なり、灰色の熱泥は物凄き音響を伴ひて噴騰し飛び散り跳ね返し渦巻く様は觀覽者の心膽を寒むからしむるに充分なり、左下側

には熱泉を噴出する板地八幡地獄あり

【鶴見地獄】

八幡地獄の入口右にあり、紺碧の熱湯沸騰し凄愴を極めり

【海地獄】

鐵輪温泉の西六丁、其の形状は瓢箪の如く廣さ八十坪の碧綠高熱の一大熱湯池と小壁を隔て、一千餘坪の澄明湖水の如き噴湯井とを併せ別府地獄中最大なるものにして一晝夜の湧出量二萬石と云ふ此の熱湯は閑靜にして眺望秀でたる新別府に送られ浴用に供せらる

【坊主地獄】 海地獄の西六丁、灰色の熱泥が大小の坊主頭をなし沸騰し居れり、此處は昔寺院のありし跡にして圓内坊と呼ぶ惡徳坊主が邪慳貧慾にして飽くことを知らず、佛罰觀面一夜にして寺は陥没し地獄となり現在沸き上りては崩れる熱泥の坊主は此の破戒僧の苦患焦熱の地獄に喘ぎもがく様なりと傳ふ

【紺屋地獄】 坊主地獄の西北七丁、明禁温泉直下の大地獄、熱湯池全面紺色の波紋をつくりて煮え返り之れに雞卵を浸せば黒色に染りて煮えるも一奇觀なり

【かまご地獄】 芝石温泉の北一丁、入口には約千坪位の碧藍の色を湛え煮え返る熱湯地獄あり少し奥へ這入れれば大石を疊みし籠型の熱氣地獄が物凄き音響をたてマツチに点火して地獄の白煙に觸れしむれば蒸氣は數倍の量に増し烈しく渦巻き上るを見る

【血の池地獄】 龜川驛の西南十五丁、地獄の廣さ三百五十坪、全面朱紅色を帯び熱泉沸騰し時々赤泉噴出して數間の血柱立つと云ふ地獄の熱泥を以て染めし「血の池染」及「血の池燒」を産す

【鬼山地獄】 海地獄の西五丁餘、灰色の熱泥物凄く噴出し、その噴出多量と猛烈さは地獄中偉觀を呈すこの鬼山地獄には數百頭の鱉を養殖して居るのもまた地獄中の偉色なり



昭和九年一月二十日印刷  
昭和九年一月二十五日發行

【非賣品】

發行所 別府市役所

印刷者 玉田初平  
別府市大字別府九八九番地ノ五

印刷所 玉新印刷所  
別府市大字別府一三四番地ノ一三

# 附錄

## 別府市街圖